

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 淀川区

学 校 名 木川小学校

学校長名 小倉 猛昭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・木川学校では、第6学年 65名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校では、平均正答率で全国平均を理科において上回ったが、国語科と算数科では若干下回った。平均無解答率では、3教科とも大阪市平均・全国平均よりも低かった。これらのことから、最後まであきらめずに、粘り強く取り組む姿勢が育っているものの、苦手な分野で最後まで解き切ることができない児童も一定数いることが分かる。

国語科・算数科・理科ともに低位層の児童が一定数存在し、固定化されている状況も見受けられる。今後さらなる個別最適な学びを推進していく必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率が、全国平均より0.8P下回っている。領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は5.6P、「我が国の言語文化に関する事項」は2.1P、「読むこと」は0.4P、全国平均正答率より上回っており、「情報の扱い方に関する事項」は5.8P、「話すこと・聞くこと」は4.1P、「書くこと」は2.3P下回っている。

〔算数〕

平均正答率が、全国平均より1.0P下回っている。領域別にみると、「数と計算」は全国平均正答率と同率で、「図形」は0.5P、「変化と関係」は1.4P上回っており、「測定」は5.6P、「データの活用」は0.9P下回っている。

〔理科〕

平均正答率が、全国平均より3.9P上回っている。領域別にみると、「エネルギー領域」で0.8P、「粒子領域」で3.0P、「生命領域」で5.5P、「地球領域」で3.9Pとすべての領域で上回っていた。

「ブロック化による学校支援事業」や淀川区役所の事業を活用した、漢字検定への参加によって、漢字の習得への子どもたちの意欲の高まりが表れている。現在「学力向上支援チーム事業」における算数科の研究への支援を通して、算数科での児童の学力向上に取り組んでおり、一定の成果が表れている。理科においては、3年生より専科指導を行っており、充実した学習活動が展開されており、その成果を発揮することができた。

質問調査より

「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化を目指して取り組んでいるが、肯定的な回答は「朝食を毎日食べている」で11.7P、「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」で11.5P、「毎日同じくらいの時刻に起きているか」で7.4P全国平均を下回っており、今後も継続して啓発が必要である。

また、肯定的な回答が「自分には良いところがある」で9.9P、「将来の夢や目標を持っている」で7.7P全国平均を下回っている。さらに「人の役に立つ人間になりたい」で0.3Pとやや全国平均を上回っているが、「地域や社会をよくするために何かしてみたいとおもいますか」では15.7P全国平均を下回っており、自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを行う必要がある。

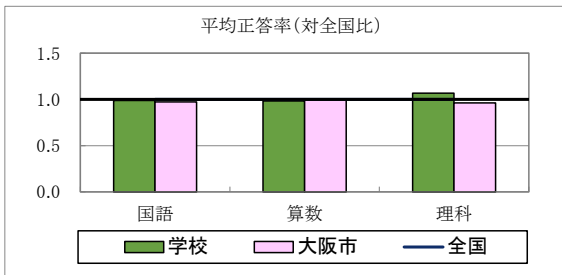
今後の取組(アクションプラン)

今年度の分析結果を受けて、本校が取り組んできた研究活動や、それを踏まえた日々の授業改善が児童の学力向上に寄与していると考えられる。一昨年度より算数科を研究強化として取り組んでいる。「児童が「わかった!」「できた!」のよさを実感できる算数科の学習～深い学びにせまる授業づくり～」を主題として研究活動を行っている。その研究成果を他教科にも拡充し、児童の基礎基本の定着を目指していく。また、5・6年生の漢字検定に向けた、1～4年生での「漢検チャレンジ」を通して、漢字学習や国語科の学習への意欲を高めていく。さらに、地域の老人会と連携した「世代間交流」や、校内での縦割り班活動での異年齢交流を通して、人と人とのつながりに重点を置いた、自尊感情を醸成する取り組みを粘り強く推進していく。

【 全体の概要 】

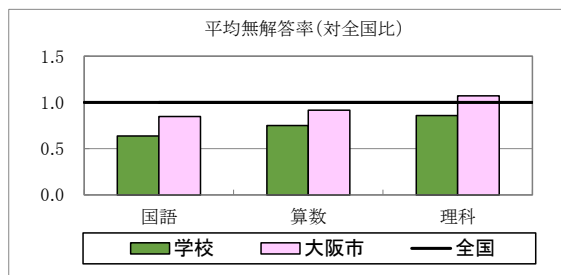
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	66	57	61
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.1	2.7	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



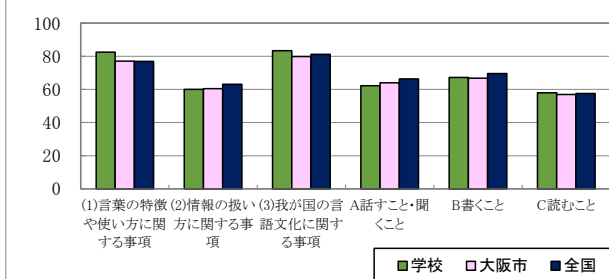
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	82.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	60.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	83.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	62.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.2	66.7	69.5
C 読むこと	4	57.9	56.9	57.5

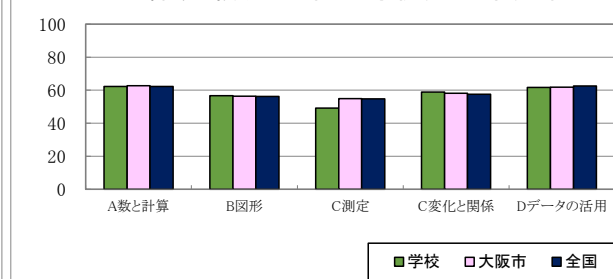
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	62.3	62.7	62.3
B 図形	4	56.7	56.4	56.2
C 測定	2	49.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	58.9	58.2	57.5
D データの活用	5	61.7	61.9	62.6

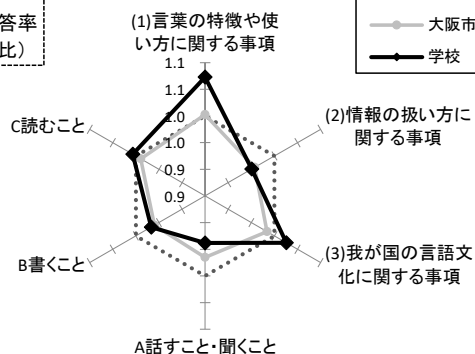
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



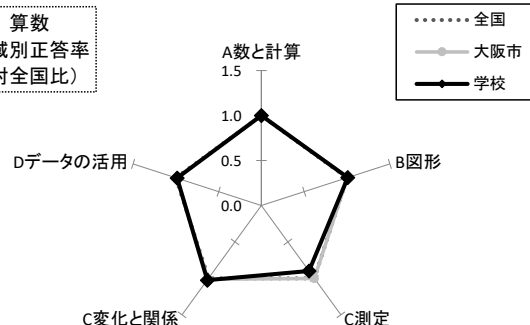
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

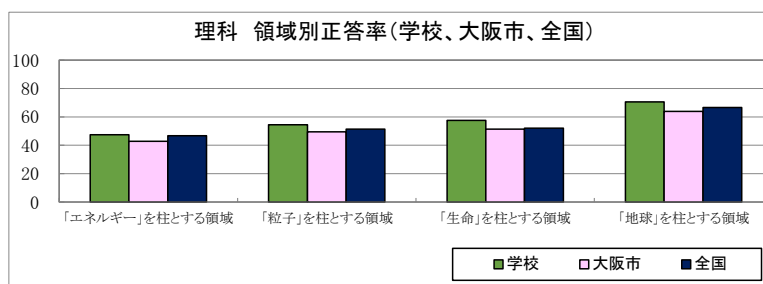


算数
領域別正答率
(対全国比)

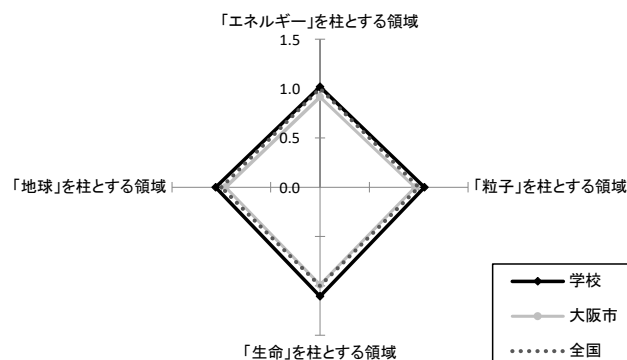


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	47.5	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	54.4	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	57.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	70.6	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

1

2

3

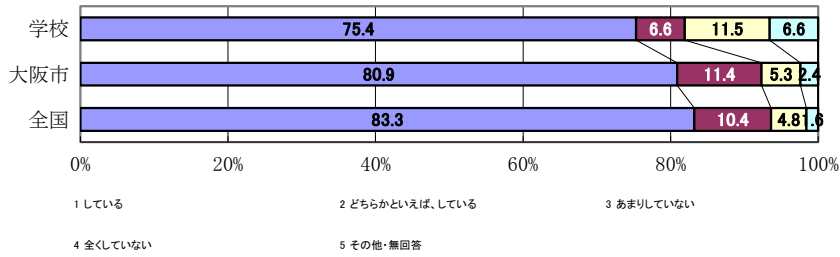
4

5

6

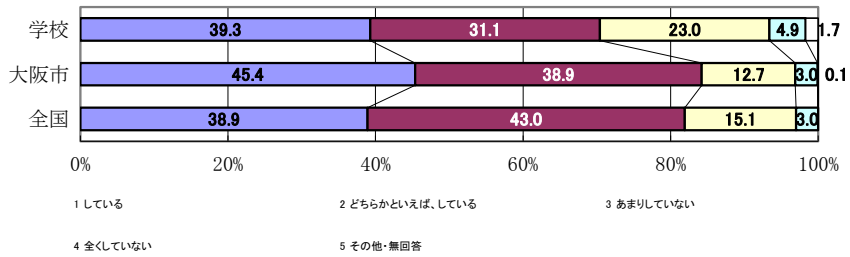
7

8



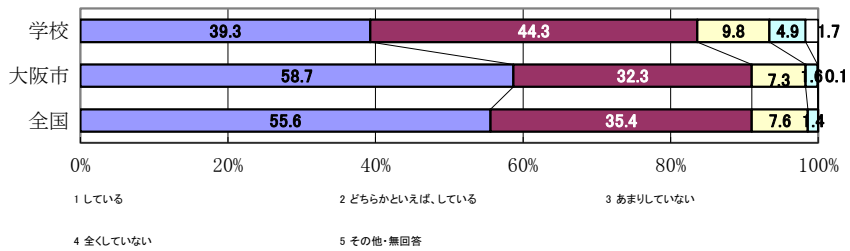
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



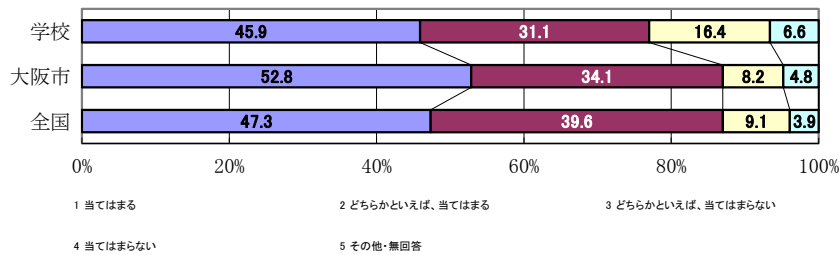
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



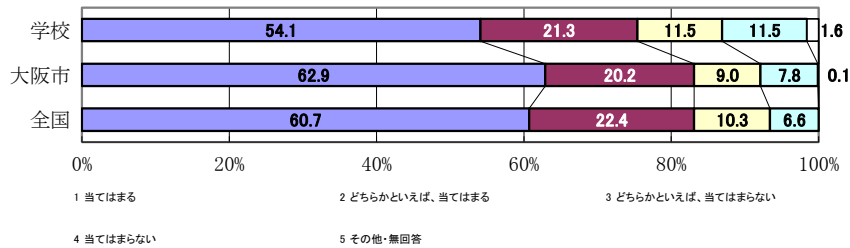
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



児童質問より

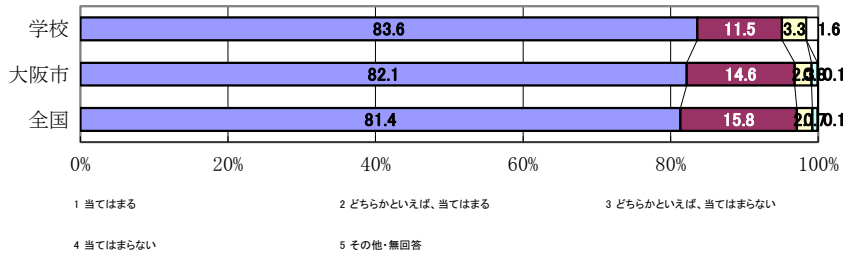
質問番号

質問事項

9

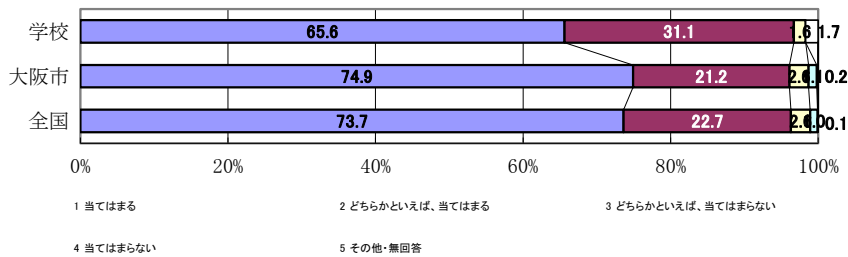
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



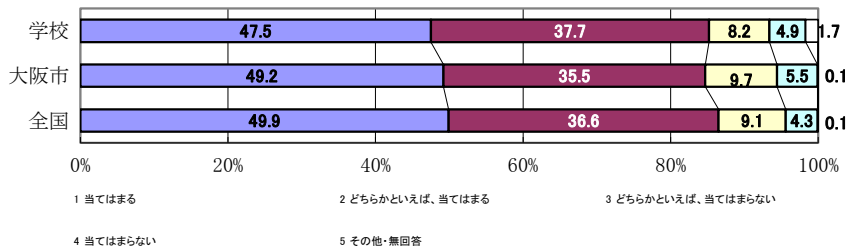
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



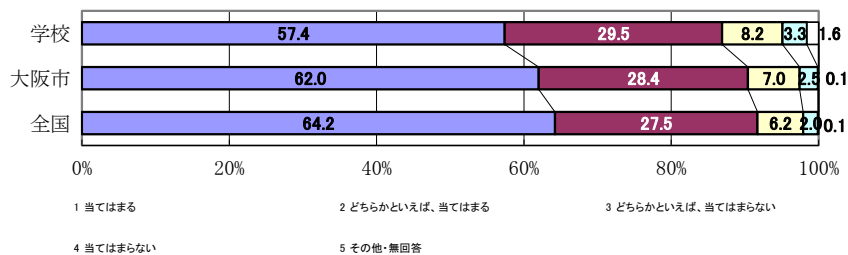
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



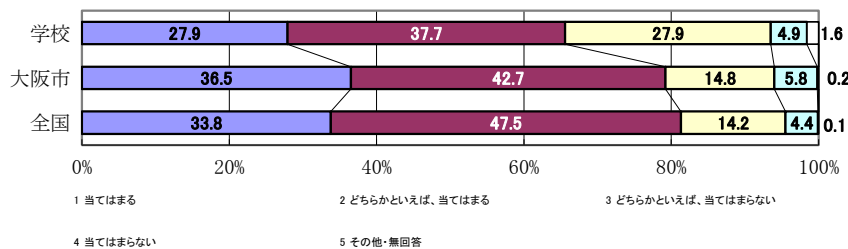
14

友達関係に満足していますか



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



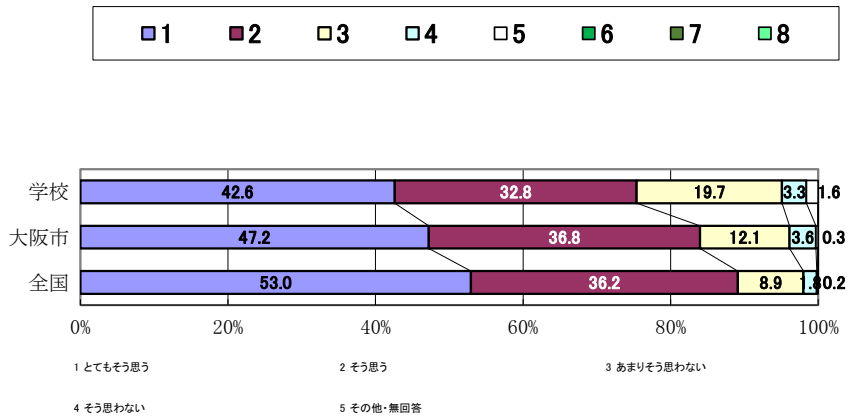
児童質問より

質問番号

質問事項

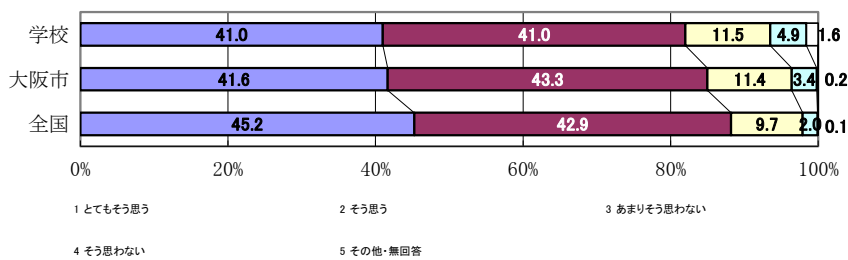
77

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



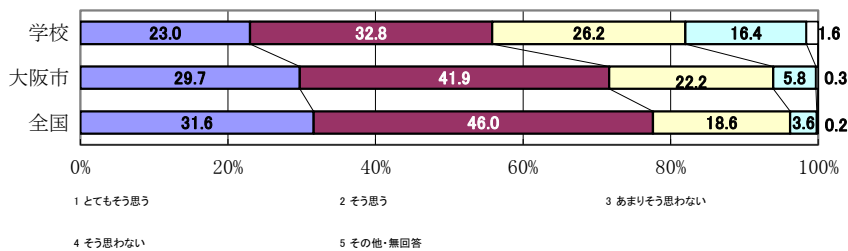
79

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



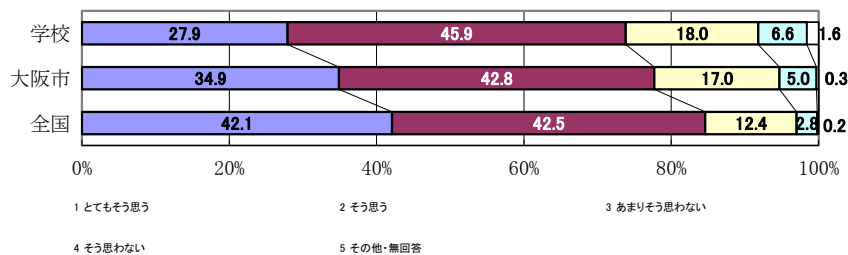
80

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



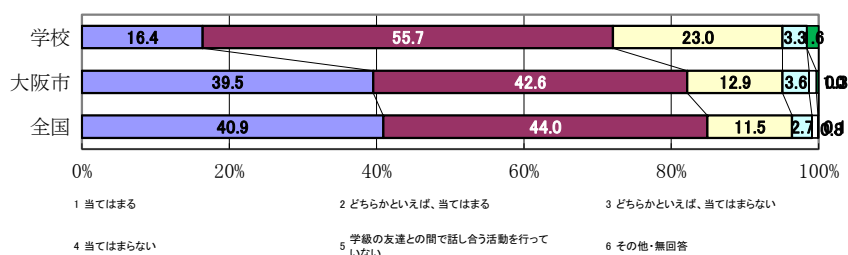
81

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



児童質問より

質問番号

質問事項

45

国語の勉強は好きですか

1

2

3

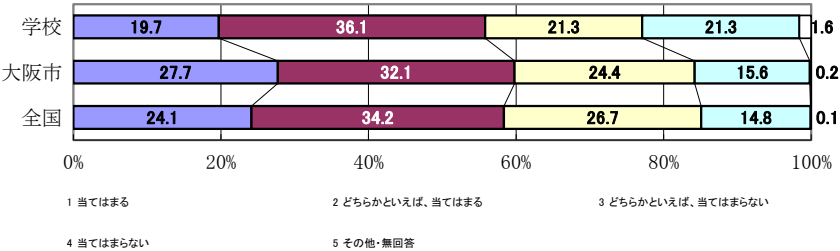
4

5

6

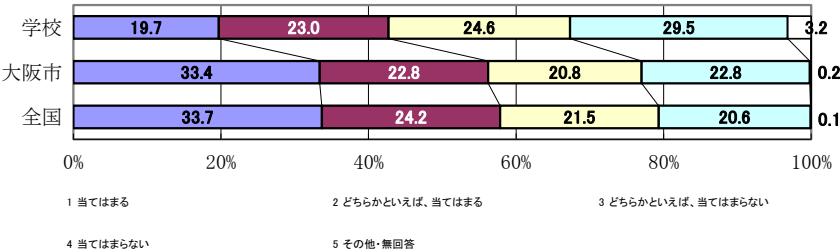
7

8



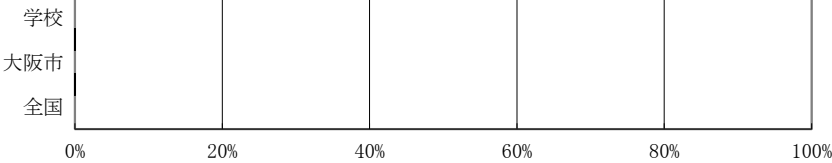
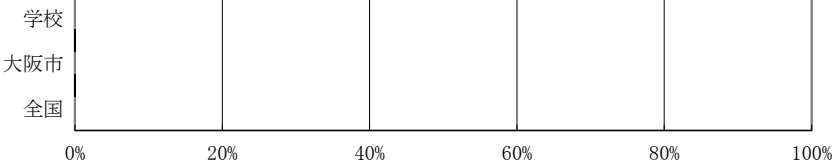
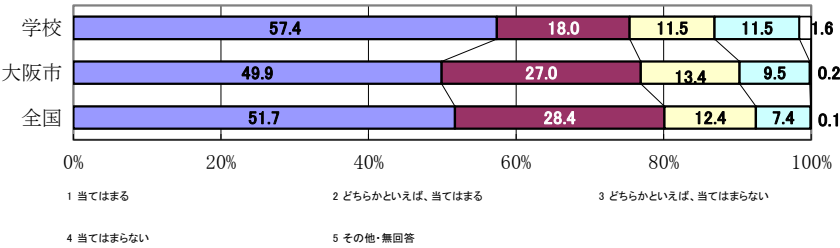
53

算数の勉強は好きですか



61

理科の勉強は好きですか



学校質問より

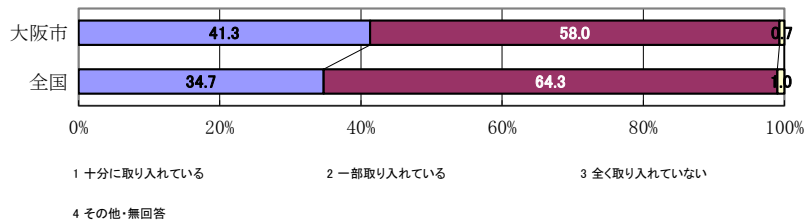
質問番号

質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

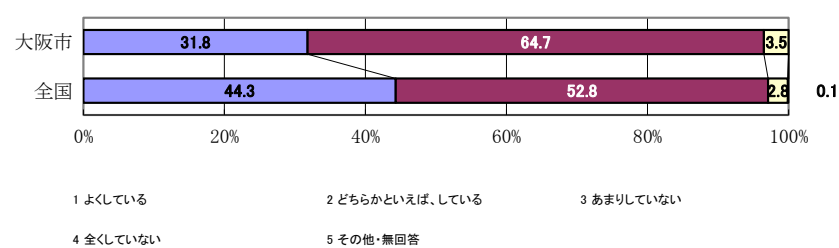
学校 「一部取り入れている」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

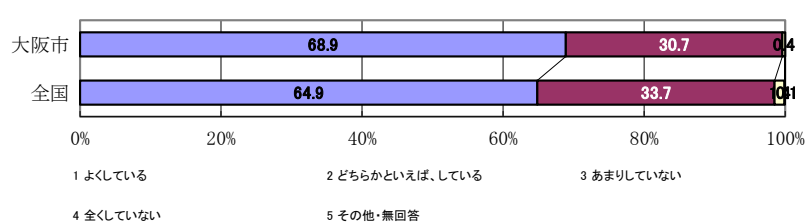
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

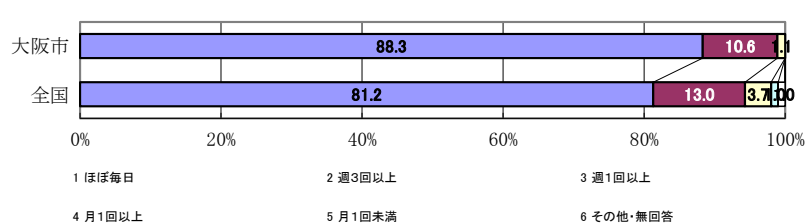
学校 「よくしている」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

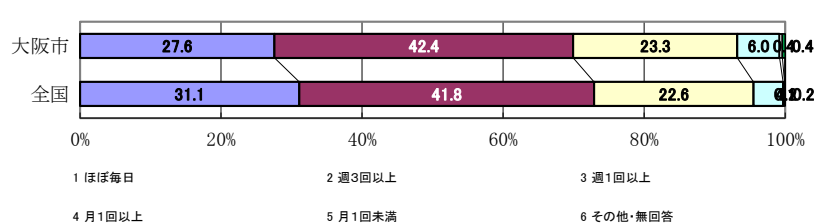
学校 「ほぼ毎日」を選択



59

調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択



学校質問より

質問番号

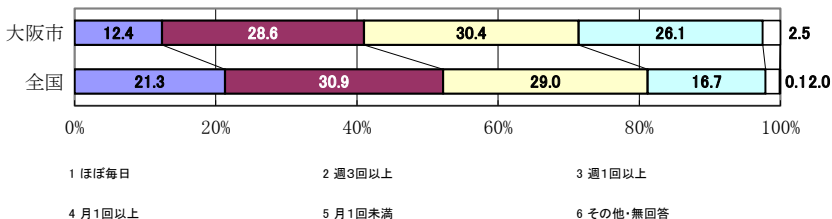
質問事項

60

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

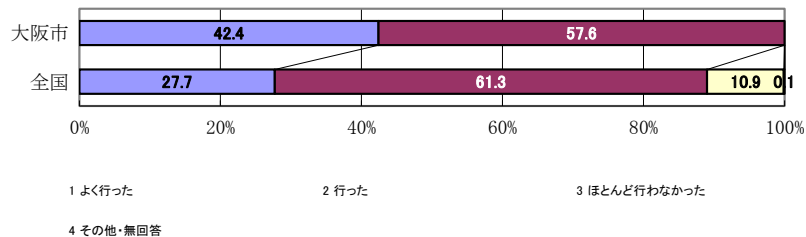
学校 「週1回以上」を選択



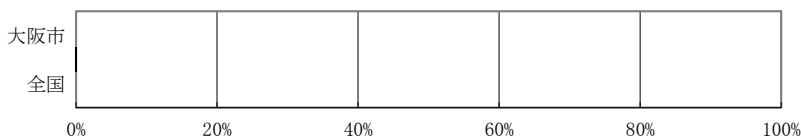
84

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)

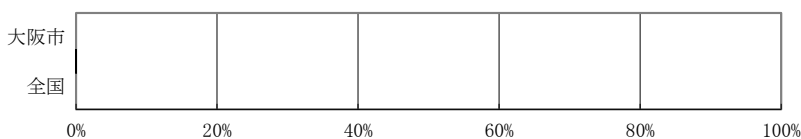
学校 「よく行った」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

